

学校教育目標	「夢に向かって かがやく子」 ○自ら問題を発見し、主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます。《知》 ○自分を大切に、他者を思いやって行動ができる優しさを育てます。《徳》 ○運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。《体》 ○夢や目標をもち、まちや社会のために、他者と協働する力を育てます。《公》 ○人とのつながりを大切に、広い視野でともに生きていく力を育てます。《開》				
	創立 44 周年	学校長 山本 佐知子	副校長 小玉 裕子	2 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 3
学校概要	児童生徒数: 649 人 主な関係校: あざみ野中学校 あざみ野第二小学校 黒須田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あざみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <言語能力> <心身ともにたくましく生きる力>	あざみ野中学校 あざみ野第一小学校 あざみ野第二小学校 黒須田小学校 (すすき野中・嶮山 小・荏子田小)	自分らしく、共に生き、未来を切り拓く子 ----- 小中学校間で学習指導や生徒指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質能力を育て「9年間で育てる子ども像」の具現化を目指す。具体的には小中授業研究会、小学生の中学校授業参観・部活動見学・生徒会オリエンテーション等を行う。

中期取組目標	子ども一人一人を大切に学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し自信をもって行動する子を育てます。 ○豊かな感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努めます。 ○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ○健康な心身を作るための生活習慣の形成と学校生活の約束を大切にす気持ち育てます。 ○家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし、社会に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努めます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①児童の実態をもとに、教材研究を丁寧に行い、学習内容や方法、指導のねらいなどについて共通理解を図り、落ち着いた環境で学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業づくりに努める。 ②話す・聞く姿勢を重点的に育成し、個々の意見や考えを認め合い、互いに学び合えるようにする。
担当 学習委員会	
徳 豊かな心	①子どもの日常的な学校生活の中で、道徳実践の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要として児童の実態に基づいた道徳科の授業改善を図っていく。 ②「ひと」「もの」「こと」のつながりを大切に体験活動を多く取り入れ、自己肯定感や他者理解を深める。
担当 児童委員会 道徳部	
体 健やかな体	①体育科での指導や外遊び等、運動の楽しさを実感できる場を工夫し、体力向上に努めていく。 ②特別活動や教科との関連や養護教諭・栄養職員との連携を図り、児童が自らの健康に対して関心を高めていけるようにする。
担当 体育部	
公 地域連携	①コロナ禍で中断・縮小していた地域とのかかわりを再度見直し、あざいちサポーターズと連携して地域の材を活用し『横浜の時間』の充実を図る。 ②学校運営協議会、学校説明会、学校便り、学校HPなどを通して、学校経営方針や教育活動の様子を発信していくとともに、朝会等を通して、地域の行事や見守ってくださる方々を紹介し、子どもの地域への所属感を高める。
担当 環境委員会	
児童指導	①児童支援専任を中心に職員が連携し「あざいちスタンダード」のねらいを共有して、組織的な指導に努める。 ②学級開き研修や児童理解研修、横浜プログラムの活用研修を行い、学年・学級運営の充実を図る。 ③傾聴研修を行い、『聴く』ことの指導に生かせるようにする。
担当 児童委員会	
特別支援教育	①ユニバーサルデザインの視点に立った授業の工夫や特別支援研修を行い、個に応じた適切な支援について学び、児童が落ち着いて安心して学習できるようにする。 ②子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うための情報共有ができる環境を整える。
担当 児童委員会	
特別活動	①学校生活の充実と向上を図るために、学級活動、児童会活動、委員会・クラブ、学校行事等の活動に児童が主体的に取り組む姿を目指す。 ②様々な集団活動を通して、活動の意義を理解し、同じ目標に向かって協働する態度を養う。 ③話し合い活動の充実を図るために、学年の実態に合わせて、学級会の実施を進める。
担当 特活部	
情報教育	①ICT活用を授業づくりに効果的に取り入れ、教育活動全体で育む資質能力の育成を目指す。 ②プログラミング教育と教科学習とを関連させたカリキュラムの効果的な実践を重ね、カリキュラムの精選や内容の改良を進め、児童の論理的思考の育成を目指す。
担当 情報視聴覚部	
いじめへの対応	①毎月、いじめ防止対策委員会を開催し、全職員でいじめ根絶に向けて取り組んでいく。 ②行事、たてわり活動、学級活動等を通して、コミュニケーション能力を伸ばす機会を設け、他者を理解し、お互いに認め合う心を育成する。 ③一人ひとりの思いや願いを受け止めるため、学年の実態に合わせた「子ども面談」を実施する。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、授業力、指導力の向上を図る。 ②キャリアステージに応じた校務、実践を行い自己研鑽を充実させる。 ③月に1~2回、教務会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定し、学校経営への参画の意識を高める。
担当 教務部	